

ANNUAL REPORT 事業報告書 2024

NItech Center for Diversity & Inclusion

国立大学法人 名古屋工業大学
ダイバーシティ推進センター

ご挨拶



工学の分野においては、あらゆる属性や背景を持つ人々に寄り添う「ものづくり」の実現に向けて、多様な研究者がそれぞれの視点を活かし、能力や個性を最大限に発揮できる環境の整備が求められています。

名古屋工業大学ダイバーシティ推進センターは、2014年に発足した男女共同参画推進センターを前身として、2017年に名称を「ダイバーシティ推進センター」に変更し、多様な価値観が共存する環境の実現に向けて、活動の幅を広げてまいりました。2024年度は、地域の工学人材を対象としたキャリア支援「女性技術者リーダー養成塾」、女子小中学生および高校生を対象とした進路選択支援「工学の扉を開こう」、さらに「モノづくりチャレンジ」などを中心に、これまでの十年間にわたる取り組みを継続的に実施し、広範な工学人材の育成と支援を行ってまいりました。また、学内においては、新たにキャンパス内の衛生施設に生理用品の無償配布機能やフィッシングボードを設置するなど、学生や教職員がより健やかに過ごせるよう学内環境の整備にも努めました。

このたび、2024年度の活動を「2024年度名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター事業報告書」としてまとめました。ご高覧いただき、本学のダイバーシティ推進事業への理解を深めていただくとともに、今後の更なる充実に向けて、皆様のご意見やご助言を賜ることができれば、誠にありがたく存じます。

今後も、さまざまな取り組みを通じて、より多くの女性が工学分野で活躍できるよう、環境整備と制度設計を一層進めてまいります。また、時代に即したダイバーシティ環境の構築において、本センターが果たす役割の重要性を認識し、魅力的なキャンパスづくりに取り組んでまいります。引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2025年3月

国立大学法人名古屋工業大学

副学長・ダイバーシティ推進センター長

吉田 江依子

目次

I. 名古屋工業大学のダイバーシティ推進

1	名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言	6
2	ダイバーシティ推進事業概要	
	(1) 実施体制	7
	(2) 多様性人材育成プログラムNITech CAN	7
3	意識啓発	
	ダイバーシティ推進シンポジウム・トップセミナー	10
4	環境整備	
	(1) 「多様な性を包摂する環境構築のために」 —名古屋工業大学の基本理念と対応のためのガイドライン—	11
	(2) OiTr（オイテル）の設置	12
	(3) フィットティングボードの設置	12
5	女性活躍支援基金	13

II. 2024年度事業実施報告

1	研究者支援	
	(1) 名古屋工業大学女性が拓く未来賞	16
	(2) 研究支援員制度	16
	(3) 女性研究者研究促進制度	17
	(4) 英語論文校正・英語プレゼンテーション支援	18
	(5) 研究力向上セミナー・第7回FD研究会	19
	(6) ライフイベント支援	20

2 産学連携による取組

(1) 女性技術者リーダー養成塾	22
(2) 女性技術者リーダー養成塾10周年 フォローアップ講座	23
(3) 産業論	23

3 次世代育成

(1) 全学に向けたダイバーシティ教育	24
(2) 次世代萌芽インセンティブ	25
(3) 女子学生団体「彩綾ー SAYA ー」	25
(4) 女子学生向け夏季オープンキャンパス	26
(5) スーパーサイエンスハイスクール事業への協力	26
(6) モノづくりチャレンジ「3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう！」 モノづくりチャレンジ・アドバンスト「3Dプリンターマスター講座」	26
(7) モノづくりチャレンジ 「プログラミング体験：ドキドキ棒で電気の仕組みを楽しく学ぼう！」	28
(8) 女性同窓会「鶴桜会」・「OG人財バンク」	29

4 情報発信

(1) 女子中高生工学進路選択支援サイト「工学の扉を開こう」	30
(2) ニュースレター	30
(3) メディア掲載	31



I. 名古屋工業大学のダイバーシティ推進

1 名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言

2 ダイバーシティ推進事業概要

- (1) 実施体制
- (2) 多様性人材育成プログラムNITech CAN

3 意識啓発

4 環境整備

5 女性活躍支援基金



ダイバーシティ推進センターは、工学系分野で未だ少数派である女性研究者・技術者が個性と能力を十分発揮し活躍できる環境の整備を最優先課題としており、その実現のための意識変革に積極的に取り組んでいます。

2017年11月に「名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言」を公開し、ダイバーシティ研究環境の実現に向けて全学体制で臨んでいます。

名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言

2017年11月22日

名古屋工業大学は、「ものづくり ひとづくり 未来づくり」という教育理念を目標に掲げ、グローバルに活躍する「実践的工学エリートの養成」をめざしています。社会のあらゆる分野でダイバーシティの価値が認識され、その推進と活用が求められている現在、本学は、目標達成を確実にするための最優先課題として、工学系分野で未だ少数派である女性研究者・技術者が個性と能力を十分発揮し活躍できる環境の整備とそれを実現するための意識変革を掲げます。

本学は、多くの優れた女子学生を育成し価値ある技術者として産業界へ輩出すること、そして多くの女性研究者を工学コミュニティの自立した一員として招き入れその活動を弛まず支援することを工学におけるダイバーシティ推進の基盤と位置付けます。その基盤の上に、本学は長年培ってきた産業界との連携を含めた戦略的なダイバーシティマネジメントを通じて、多様な人材活用〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉の実現をめざします。

本学における〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉とは、人種、性別、年齢などの違いだけでなく、宗教、母語、文化・社会的背景などの内面的な差異をも含めた、多様な違いを受け入れて活かすことにより、組織全体の強靱さを高め、さらにはイノベーション創出に繋げることをめざすものです。

これらの理念・目標を踏まえ、名古屋工業大学はダイバーシティに基づくオープンイノベーションの実現に貢献するため、以下の基本方針を掲げて積極的に活動することを宣言いたします。

基本方針

1. ダイバーシティ推進の視点に立った教育・研究環境の整備を行う
2. ダイバーシティ推進とその活用の観点から、全構成員の労働環境の整備を行う
3. 〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉の実現に向けた意識変革に努める

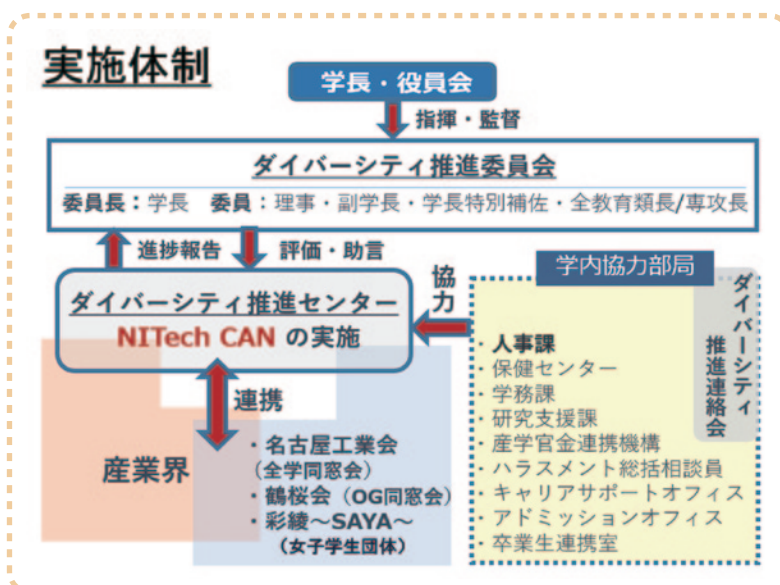
2 ダイバーシティ推進事業概要



ダイバーシティ推進センターでは、2017年度から2022年度までの6年間にわたり、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」のもと、「多様性人材育成プログラムNITech CAN」を構築し、実施してまいりました。2023年度の事後評価において最高評価であるS評価を獲得した本取組みは、補助事業終了後も継続されており、2024年度も引き続きその活動を展開しました。

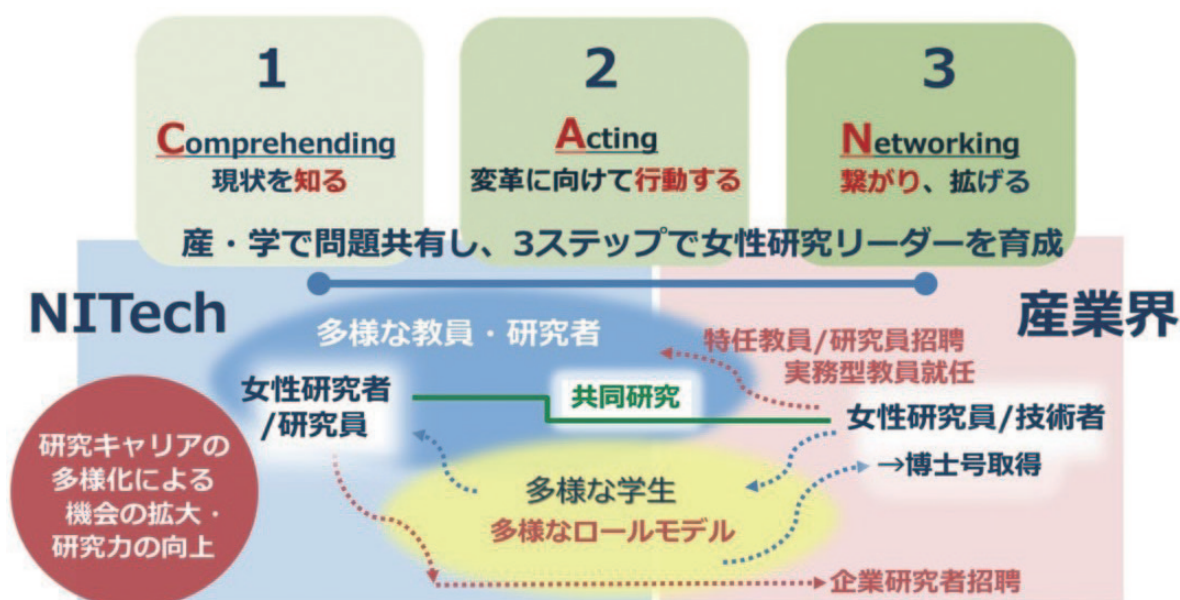
(1) 実施体制

事業の目的と意義の理解を確実に全学の裾野まで広めるため、学長を委員長とし、理事、副学長、学長特別補佐、すべての教育類長・専攻長を委員とするダイバーシティ推進委員会を立ち上げ、取組の周知と協力体制を築いています。また、学内の啓発セミナーを学務課との連携のもと、FD研究会として開催したり、研究者のための特許セミナーを研究支援課と連携して開催するなど、各部署との連携によりダイバーシティ推進センターの取組の幅を広げました。



(2) 多様性人材育成プログラム NITech CAN

「多様性人材育成プログラムNITech CAN」とは、本学が長年培ってきた産学連携の実績を背景に、工学分野のダイバーシティを高めるために必要な、「知る=Comprehending、行動する=Acting、繋がり、広げる=Networking」の3つの指針を産業界と大学が一体となって遂行するしくみです。具体的な取組内容は、次ページで紹介しています。



イノベーション創出の鍵となるダイバーシティ豊かな人材育成を目指し【次世代育成】と【研究者支援】を2つの重要ミッションとして掲げます。

地域産業界・同窓会との協働を通じ、これらをC・A・Nの3つのステップで着実に遂行します。

次世代育成

- step 1. **C**omprehending
- step 2. **A**cting
- step 3. **N**etworking

研究者支援

C Comprehending 現状を知る

工学女子キャリア形成塾

研究キャリアへの誘導

研究力向上セミナー

共同研究・競争的資金獲得支援

全学に向けたダイバーシティ教育

正課科目にダイバーシティ教育を整備

A Acting 変革に向けて行動する

中高生の理系選択支援

企業・自治体との連携

ポジティブ・アクション

女性限定公募・上位職登用

リスタート研究費の付与

キャリアを中断した研究者の復帰支援

スタートアップ助教制度

大学院生の研究キャリア形成支援

研究促進インセンティブ付与

大型科研費獲得、共同研究の促進

ライフイベント支援

ベビーシッターサービス利用補助、一時保育

N Networking 繋がり、拡げる

OG人財バンク

企業研究者、技術者、院生も参加

女性研究者データベース公開

共同研究に向けた女性研究者情報の集約と公開

女子学生団体「彩綾 -SAYA-」

学科・学年を越えた女子の交流とキャリア支援

女性技術者リーダー養成塾

地域産業界と連携



名古屋工業大学女性が拓く未来賞

優れた研究業績を挙げることが期待される学内の女性研究者を表彰することにより、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の発掘と育成を図っています。



女性研究者データベース

工業大学ならではの研究シーズを持つ本学の女性研究者と産業界および地域社会の連携を促進するため、名工大の女性研究者の代表的な研究を公開しています。



研究力向上セミナー

女子大学院生・女性研究者のキャリア形成を目的とする研究力向上セミナーを開催しています。



工学進路選択支援イベント

女子児童・生徒が科学やテクノロジーに触れ、科学技術への関心や理数系の学びへの関心を高める機会として、プログラミング・3Dプリンター体験講座を開講しています。



女子中高生工学進路支援サイト

次世代を担う女子学生に工学分野の幅広い魅力を伝えることを目的として、常時動画を公開しています。



女性技術者リーダー養成塾

キャリアデザインやコミュニケーションスキル、プロジェクトマネジメント、イノベーションに関する実践的なプログラムを提供し、女性技術者のステップアップをサポートします。



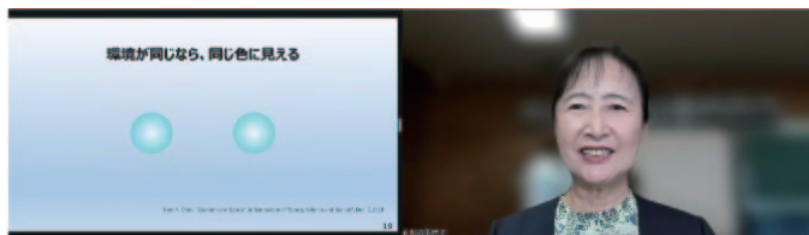
ダイバーシティ推進シンポジウム・トップセミナー

「共に創る未来へ」

2024年9月18日、名古屋工業大学ダイバーシティ推進シンポジウム「共に創る未来へ」をオンラインで開催しました。

本シンポジウムは、工学人材の多様性促進の意義を学び、課題を共有することを目的とするもので、学長はじめダイバーシティ推進委員会委員の他、教職員、学生等が参加しました。

初めに、主催者を代表して小畑誠学長が挨拶し、本学のダイバーシティ推進の理念が紹介されました。続いて行われた講演では、講師に、学校法人日本大学常務理事・特定非営利法人ウッドデッキ代表理事の渡辺美代子氏を迎えて「多様性が拓くイノベーション」と題してお話いただきました。



学校法人日本大学常務理事・特定非営利法人ウッドデッキ代表理事 渡辺美代子氏

渡辺先生は、多様性がなぜ重要かを明確に説明された後、ジェンダード・イノベーション、男性の危機、人口バランスというジェンダーを巡る重要な課題を多岐に渡って取り上げられ、二項対立的に捉えられがちなジェンダーの問題に対して多角的に理解を深める視点を示されました。

講演後に行われたダイバーシティ事業報告では、ダイバーシティ推進センターの加野泉准教授より、今年3月に公開された事後評価で最高評価のS評価を獲得した文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の取組と成果の振り返りと、新たに進めている環境整備について説明がありました。

本学役員、教育類長、センター長等で構成されるダイバーシティ推進委員会委員のほか、学内外から34名が参加しました。参加者からは、「バイアスはないという人がバイアスを持ちがちだというお話は、自分の戒めにしようと思いました。また、ダイバーシティを浸透させる取組には、学内改革のプロセスに通ずるところがあり、参考となりました。」などの声が寄せられました。



- 日 時 : 2024年9月18日
 講 師 : 学校法人日本大学常務理事、特定非営利法人ウッドデッキ代表理事 渡辺美代子氏
 会 場 : オンライン (Zoom Meetings)
 対 象 : 学長、本学役員、教育類長、センター長ほか * 学内教職員・学生・一般聴講可
 参加者 : 34名

4 環境整備



(1)「多様な性を包摂する環境構築のために」

一名古屋工業大学の基本理念と対応のためのガイドライン

名古屋工業大学は、性の多様性をめぐる本学の諸課題に対する現時点での具体的な対応の方針を定め、全部局での合意形成を図るため、ガイドラインを公開しています。

ガイドラインの詳細については、ダイバーシティ推進センターウェブサイトよりご確認ください。



I. 多様な性を包摂する環境構築のための基本理念

名古屋工業大学は、「これからの社会の平和と幸福への貢献」を基本使命として大学憲章に掲げています。この理念のもと、多様な性が尊重される環境の構築に、責任をもって対応します。

自己決定を尊重します

個人の性自認や性的指向、性別表現の情報やその開示・非開示は、当事者の意思により決定されるものです。本学は、性に関わる自己決定権が、決して他者に侵害されることのないよう意識啓発やハラスメントの防止に努めます。

修学・サービスの妨げを取り除きます

修学・サービスに関わる規定や慣習により、個人の性自認や性的指向の自己決定権が侵害される、または個人に不利益が生じる場合は、本人の申し出により、合理的配慮をし、妨げとなる事柄を取り除きます。

少数者に対する差別を許しません

個人の性自認や性的指向、及びそれらに基づく性別表現に対する差別的発言や行為、並びに、性に関する固定観念に基づく差別的発言や行為を許しません。性に関わる自己決定権の行使、修学・サービスの妨げに関して申し出をしたことにより、本人が不利益を被ることのないよう、全部局において対応についての合意形成を行います。

II. 現段階での具体的対応

総合相談窓口

本学では、性自認、性的指向(SOGI)に関わる相談をダイバーシティ推進センターで受け付けています。ここでは、主に本人や関係者を対象として、本ガイドラインに示した内容を中心に相談することができます。

相談内容によっては、下記に示す学内の他の窓口を紹介して、連携して対応することもあります。連携方法や共有する情報の範囲については、必ず事前に本人と確認した上で進めます。安心してご相談ください。

どこに相談したらよいかわからない場合は、まずは、ダイバーシティ推進センターにお問い合わせください。

【性自認、性的指向(SOGI)に関わる総合相談窓口】

名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター
連絡先: diversity-staff@nitech.ac.jp
052-735-5279
場 所: 11号館2階

【連携窓口】

学 生	氏名・性別情報について	学務課
	健康診断について	保健センター
	留学について	留学生支援室
	インターンシップ・就職活動について	学生生活課
教 職 員	氏名・性別の変更、通称使用について	人事課

施設・環境について

(1)トイレ

51号館を除くすべての建物に多機能トイレがあり、誰でも利用できます。

また、一部の多機能トイレには、フィッシングボードが設置されています。

多機能トイレには右記のようなマークが表示されています。

(2)更衣室

更衣室の使用について、希望により個別対応を相談することができます。

ダイバーシティ推進センターにお問い合わせください。



(2) OiTr（オイテル）の導入

52号館 1 階女性トイレ（5215 講義室東側）、4 号館 1 階多機能トイレ、NITech Hall 1 階女性トイレに生理用ナプキン無料提供ディスペンサー「OiTr（オイテル）」を 1 台ずつ設置しています。

個室トイレ内の壁面に掲示されている QR コードからアプリをダウンロードし、ユーザー登録を行うとすぐに利用することができます。（初回のみユーザー登録不要）。

これにより、学生や教職員が生理用品を急に必要とした場合でも安心して学業やキャンパスライフに専念できます。



OiTr（オイテル）
設置サイン



QR コード

1.



個室トイレ内に掲示してある QR コードをスマートフォンで読み取り OiTr アプリ（無料）をダウンロードします。

2.



OiTr アプリを起動し、画面の取り出しボタンをタップし、スマートフォンをディスペンサー（OiTr ロゴあたり）に近づけます。

3.



しばらくすると、ディスペンサーの取り出し口から生理用ナプキンが 1 枚無料で出てきますので、引き取りください。

(3) フィットティングボードの設置

学内 7 か所の多機能トイレにフィッティングボードを設置しています。簡易な着替えの際などに使用することができます。



フィッティングボード：収納時



フィッティングボード：使用時



フィッティングボード
設置サイン

【設置箇所】

- ・ 11号館 1 階
- ・ 体育館 1 階
- ・ 19号館 1 階郵便室北側
- ・ 52号館 1 階 5215 講義室東側、化学実験室東側
- ・ 52号館 2 階 5225 講義室東側
- ・ 52号館 3 階 5235 講義室東側

5 女性活躍支援基金

現代社会においてダイバーシティの重要性に対する理解が深まり、人材の多様性が生み出すイノベーションにますます期待が高まる中、これまで以上に女性工学人材の育成を強化する必要があります。名古屋工業大学は、工学を志す女子学生のキャリア教育を強化するとともに、女性技術者、女性研究者の活躍を促進し、多様なロールモデルを次世代に示すことで、本学のみならず、工学分野全体のダイバーシティ推進に一層貢献するため、2023年4月3日、「女性活躍支援基金」を設立しました。

ご支援いただいた寄附金は、イノベーションの担い手となる女性工学人材の育成、それぞれが個性と能力を発揮できる環境構築のために有効に活用させていただきます。主な使途は以下のとおりです。

1. 女子学生・女性研究者を対象とする研究促進事業
2. 優秀な女性研究者の顕彰
3. ライフイベントと研究の両立支援
4. 女子小・中・高生、及び保護者を対象とする工学進路選択支援事業
5. ダイバーシティ教育研究環境の構築



寄附のお申込み方法

以下の方法にてご寄附を承っております。

- ・インターネット
- ・郵便局・銀行等金融機関からの振込
- ・名古屋工業大学収納窓口(財務課出納係)
- ・遺贈による寄附

それぞれのご寄附申込みの詳しい流れについては、右記二次元コード、又は
<https://www.nitech.ac.jp/kikin/donate/> よりご確認をお願いいたします。



2024年度女性活躍支援基金にご寄付賜りました皆様へ

このたびは、私たちの活動にご賛同いただき、女性活躍支援基金へのご寄付を賜り誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

お寄せいただいた寄付金は、工学分野における女性人材の育成とその活躍促進を目的とする、多岐にわたるプログラムの実現に活用させていただきます。皆様の温かいご支援が、私たちの活動をより一層広げ、社会全体の意識改革に繋がることを確信しています。

今後とも、女性の活躍支援のために尽力してまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。



II. 2024年度事業実施報告

1 研究者支援

- (1) 名古屋工業大学女性が拓く未来賞
- (2) 研究支援員制度
- (3) 女性研究者研究促進制度
- (4) 英語論文校正・英語プレゼンテーション支援
- (5) 研究リーダー養成塾
- (6) ライフイベント支援

2 産学連携による取組

- (1) 女性技術者リーダー養成塾
- (2) 女性技術者リーダー養成塾10周年 フォローアップ講座
- (3) 産業論

3 次世代育成

- (1) 全学に向けたダイバーシティ教育
- (2) 次世代萌芽インセンティブ
- (3) 女子学生団体「彩綾ー SAYA ー」
- (4) 女子学生向けオープンキャンパス
- (5) スーパーサイエンスハイスクール事業への協力
- (6) モノづくりチャレンジ「3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう！」
モノづくりチャレンジ・アドバンスト「3Dプリンターマスター講座」
- (7) モノづくりチャレンジ
「プログラミング体験：ドキドキ棒で電気の仕組みを楽しく学ぼう！」
- (8) 女性同窓会「鶴桜会」・「OG人財バンク」

4 情報発信

- (1) 女子中高生工学進路選択支援サイト「工学の扉を開こう」
- (2) ニュースレター
- (3) メディア掲載

1 研究者支援

(1) 名古屋工業大学女性が拓く未来賞

2024年10月15日、第11回「名古屋工業大学女性が拓く未来賞」授賞式が行われました。この賞は優れた研究業績を上げることが期待される名古屋工業大学の女性研究者を表彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成を図り、ダイバーシティの推進に資することを目的としています。

本年度は、細島頌子特任助教（生命・応用化学科 生命・物質化学分野）が受賞しました。小畑誠学長より細島特任助教に表彰状、トロフィー、副賞が授与されました。



名古屋工業大学女性が拓く未来賞 受賞者の声



細島頌子特任助教
生命・応用化学科
生命・物質化学分野

この度は名誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。名古屋工業大学での研究が実を結び、喜ばしい限りです。研究室のメンバーはもちろん、大学関係者の皆様の充実したサポート、ともに研究に取り組んだ方々の支えがあつてのことと思います。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

私たちは光受容タンパク質であるロドプシンを研究しています。ロドプシンは光を受容することで様々な機能を発揮するため、今日では生命現象を操作するツールとして広く利用されています。現在、私たちはロドプシンを利用した視覚再生を目標に、治療薬の開発にも取り組んでいます。今後も「未来づくり」に貢献できるよう、研鑽を積んでいきたいと思っています。また私たちの取り組みが、後進の女子学生にとって女性研究者の1つのロールモデルとなれば幸いです。

(2) 研究支援員制度

本制度は、男女を問わず出産、育児、介護もしくは看護、それ以外の生活上の理由のために、十分な研究時間を確保できない教員等に研究支援員を配置することで、生活と研究業務の両立を図るための支援をするものです。

研究支援員の身分はパートタイマーとし、雇用できるのは、本学の大学院に在籍する学生、本学の卒業生です。「学生研究支援員」の勤務時間は1週間あたり19時間以内、「卒業生研究支援員」の勤務時間は1週間あたり30時間以内です。

利用対象者

以下のいずれかの要件を満たす本学の教員及び研究員

- ・ 妊娠中の者又は産後休暇を承認された者
- ・ 育児休業等を取得している者
- ・ 中学校就学の始期に達するまでの子（配偶者の子を含む）を主として養育する者
- ・ 介護休業等を取得している者
- ・ 介護保険法で規定する要介護者または要支援者を主として支援する者
- ・ 家族のうち看護を必要とする者を主として看護する者
- ・ 女性の教員等（教授を除く）で、生活上の理由により特に研究業務の支援を必要とする者



(3) 女性研究者研究促進制度

女性研究者が、受託研究や民間企業との共同研究等につながる外部資金獲得の研究提案を行い、実現に至る例は全国的に未だ少数にとどまっています。本学では、この現状を変えるために、意欲ある女性研究者を対象に研究促進のためのインセンティブを付与して研究を支援する「女性研究者研究促進制度」を2017年度に発足しました。

学内の女性研究者研究促進制度選考委員会の審査により、2024年度は5名の女性研究者が採択され、研究費が支給されました。

対象

- ・将来の外部資金獲得、研究力の向上等に寄与する研究シーズを持っている、准教授、助教、特任教員、特任研究員、研究員等とする。
- ・准教授、助教にあつては、2024年度の学内研究推進経費（戦略的研究、将来を見据えた研究、若手研究）の申請、もしくは、2024年度内の外部資金申請（導入）を前提とした申請であることを条件とする。

採択者の声

日本の現代建築における気候に適応する可操作な外皮要素の偶有価値に関する研究

社会工学類 助教 陳曄

気候に適応する可操作な外皮要素に焦点を当て、当該構法がもたらす価値についてより詳細な考察を行いました。また、中国の伝統建築における気候適応の偶有価値が現代建築においてどのように継承・変容されているか分析し、論文を投稿しました。

さらに、日本の現代住宅における気候に適応する可操作な要素の偶有価値をもとに、空間を隔てる可変な境界要素の類型化を進めており、今後は可変性に着目した住宅の内外境域の分析に活用する予定です。海外のワークショップや国際会議に参加し、口頭発表や各国の研究者との交流を深め、新たな視点を得ることができました。海外の査読付き論文集への投稿も進めており、研究成果の国際的な発信に関する経験を蓄積しました。

本制度の助成により蓄積した研究成果を基盤とし、今後の研究計画を精緻化し、積極的に外部資金の申請を行う予定です。

ラケットスポットにおける試合ビデオ分析

情報工学類 助教 丁寧

本制度を活用し、先進的なドローンを購入して、バドミントンダブルスの最適ポジショニングの推定における選手の位置決定と動きを精密に分析するアルゴリズムの開発が可能となりました。これにより、JSPS 研究スタート支援プログラムへの申請資格を得ることができました。

さらに、戦術的なシーンを解析し、適切なテキスト記述を生成するためのアノテーションツールの使用が可能となり、「バドミントンにおける戦術的シーンのキャプション生成」プロジェクトを推進することができました。これにより、より効果的な指導や戦術の策定を行うための具体的なデータと洞察を提供できるようになりました。このプロジェクトは、科学技術振興機構（JST）のACT-Xの申請書の一環として研究の実行可能性を示し、戦術分析の分野における新たな研究アプローチとして評価されています。企業やスポーツ団体との共同研究の可能性を生み出し、産学連携を活用して資金調達を進める道を開くと考えています。

固体電解質材料加工の自動化による効率的なデータ収集

生命・応用化学類 特任准教授 武田はやみ

本助成金により、ロボットアームの使用方法や3Dプリンターを活用した実験治具を作製する技術を習得し、サンプル作製過程の部分的な自動化に成功しました。今後は、自動化工程の拡充を行い、特に、ロボットアームによる精密な操作と3Dプリンターによるカスタマイズされた部品作製を組み合わせることで、より高品質な材料を短期間で開発することが期待されます。

また、日本セラミックス協会東海支部学術研究発表会および日本MRS年次大会に参加し、固体電解質材料やラボラトリーオートメーション(LA)に関する最新情報を収集しました。これにより、今後の研究に対する具体的な指針を決めることができ、聴講した講演から新たな研究アイデアも得ることができました。

Polyphasic characterization of *Desulfitobacterium elongatum* sp. nov. NIT-TF6 Isolated from Trichloroethene-dechlorinating culture with formate.

社会工学類 特任助教 Udaratta Bhattacharjee

This support enabled the procurement of essential chemicals and equipment, allowing for in-depth knowledge of physiological, morphological, and genomic characterization of an isolated strain. Additionally, we were able to utilize English correction service to improve the language of the submitted research articles. Consequently, these improvements shall contribute to the submission of research findings to recognized journals.

サイバーリスクファイナンス研究

社会工学類 研究員 岩崎祐子

本制度により、ノートパソコン、外付けハードディスク、PDFソフトウェア等を購入することで、研究効率が大幅に向上しました。また、国内外の3つの学会でサイバーセキュリティファイナンスに関する発表を行ったことで、国際的な視野が広がり、最新の研究動向を把握することができました。また、研究者とのネットワークが強化され、研究成果を広く発信する機会も増え、フィードバックを受けることで研究の質が向上しました。

このような制度利用の機会を頂戴し、大変ありがたく思っております。ありがとうございました。

(4) 英語論文校正・英語プレゼンテーション支援

本制度は、出産、育児、介護等のために十分な研究時間を確保できない教員等が、英語論文・プレゼンテーション原稿の校正を委託する際にかかる経費を補助することにより、生活と研究業務の両立を図れるよう支援することを目的としています。

一件につき上限を3万円とし、1名につき論文校正・英語プレゼンテーション支援を合わせて年間3件までとします。

利用対象者

以下のいずれかの要件を満たす本学の教員及び研究員

- ・妊娠中の者又は産後休暇を承認された者
- ・育児休業等を取得している者
- ・中学校就学の始期に達するまでの子(配偶者の子を含む)を主として養育する者
- ・介護休業等を取得している者
- ・介護保険法で規定する要介護者または要支援者を主として支援する者
- ・家族のうち看護を必要とする者を主として看護する者
- ・女性の教員等(教授を除く)で、生活上の理由により特に研究業務の支援を必要とする者



(5) 研究力向上セミナー・第7回FD研究会

「研究室のマネジメント」

2025年3月17日、第7回FD研究会としてNITech CAN研究力向上セミナー「研究室のマネジメント」を、工学教育総合センターと共同で開催しました。

電気機械工学類の平田晃正教授、小寺紗千子准教授をお迎えし、共同での研究室運営に関する実践的な知見を共有いただきました。

平田教授は、これまでの研究プロジェクトの推移を振り返りながら、研究テーマの設定、資金調達、国際連携の構築について具体的な手法を紹介され、続いて、小寺准教授から、学生指導を中心に、ゼミの運営、進捗管理、学生主体による研究室Wikipediaの運営や役割分担についてお話がありました。

教員を中心に50名が参加し、講演の後は活発な質疑応答が行われました。



平田晃正教授



小寺紗千子准教授

参加者のご意見・ご感想

- ・プロジェクト研究と大学事務作業、学会活動とのバランスのとり方が大変参考になりました。
- ・自分の研究室について考える良い機会になりました。
- ・研究室運営に関するいくつかのアイデアが得られて良かった。
- ・学生主体のゼミ運営に関する情報が有意義でした。ぜひ、活用できればと思います。
- ・ポスドクがポスドクを終えた後も関係を保つことが共同研究を推進する上で重要であることが分かりました。



日 時 : 2025年3月17日
講 師 : 電気機械工学類 平田晃正教授、小寺紗千子准教授
会 場 : 対面:1号館 0112室、オンデマンド
対 象 : 教員・研究員
参加者 : 対面50名、オンデマンド106名

(6) ライフイベント支援

1. ベビーシッター利用の補助制度

本学は、2015年度に「名古屋工業大学ベビーシッター育児支援実施要項」を制定し、本学教職員及び学生の育児と仕事、研究の両立のために四種類の支援をしています。

① 内閣府のベビーシッター派遣事業の割引券利用

子ども・子育て支援法(2012年法律第65号)第59条の2第1項に基づき、公益社団法人全国保育サービス協会が発行する「ベビーシッター派遣事業」の割引券を利用するものです。

補 助 の 内 容	サービス利用時に割引券提示で、1枚あたり2,200円の割引が受けられます。 ※利用料金が1回につき使用枚数×2,200円以上のサービスを対象とします。
利用可能枚数	対象児童1人につき1日(回)2枚まで(一か月24枚、一年280枚まで)
利 用 対 象 者	本学に勤務する教職員(パートタイマーの方は、厚生年金の被保険者に限ります)
利 用 対 象 となる 子 供	・乳幼児又は小学校3年生までの児童 ・その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童
利 用 の 条 件	・利用対象者がベビーシッターサービスを利用しないと就労継続することが困難な場合 ・出勤簿にて出勤が確認できること ・利用者の家庭内における保育や世話並びに家庭と保育所との送迎である場合 ・公益社団法人全国保育サービス協会が認定しているベビーシッター事業者の利用に限る

② 大学契約ベビーシッターサービス「千種シッターサービス」

本学独自の契約により本学の教職員及び学生は、会員料金で大学近隣の保育施設「千種シッターサービス」を利用できます。また、本学に勤務する教職員(パートタイマーの方は厚生年金の被保険者)への利用料の補助等も行っています。

利 用 対 象 者	本学の教職員及び学生
補 助 の 内 容	会員料金でベビーシッターサービスを利用できます。 なお、本学に勤務する教職員(厚生年金の被保険者である非常勤職員を含む)は、申請により一家庭につき一日(回)あたり700円の補助が受けられます。
利 用 対 象 となる 子 供	・乳幼児又は小学校3年生までの児童 ・その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童
利 用 可 能 サ ー ビ ス	・シッタールーム利用 ・シッター派遣(※ベビーシッター派遣事業割引券を利用することはできません)



③ 病児・病後児保育支援制度

本学教職員が養育する児童が病気にかかり、通常使用している保育施設等での保育が困難な場合に、一時的にベビーシッターサービスによる病児・病後児保育を受け、業務の遂行を可能とする支援制度です。

補助の内容	登録料の全額及び利用料金の半額を大学が負担します。 ＜利用料金＞ 7:00 ～ 9:00 2,150円/時間(税別) 9:00 ～ 18:00 1,950円/時間(税別) 18:00 ～ 19:00 2,150円/時間(税別) ※前営業日18:00以降の連絡は1,000円/時間の加算、市内通勤費加算850円/回等があります。 ※最低利用時間は、2時間です。
利用対象者	本学教職員
利用対象となる子供	本学教職員が養育する小学校3年生までの児童
利用の条件	①病児保育：病気にかかっているが、感染性の強い病気でなく、当面の症状の急変が認められない場合においての一時的な保育 ②病後児保育：病気の回復期であるが、通常使用している保育施設等での保育が困難な場合等においての一時的な保育

④ 学会託児サービス利用補助制度

本学教職員・研究員(非常勤含む)が学会大会及び付随する会議に出席するために、その会場等で学会により提供される託児サービスを利用する場合に、託児サービス利用料金の補助をする支援制度です。

支援の内容	学会により提供される託児サービス利用料金の補助が受けられます。
利用上限	補助額は1申請者につき年間1万円を上限とする
利用対象者	本学に勤務する教員・研究員
利用対象となる子供	本学教職員・研究員が養育する小学校6年生までの児童
利用の条件	・学会大会及び付随する会議に出席するために、学会により提供される託児サービスを利用する場合 ・開催日数、出席日数に関わらず、学会あるいは会議への出席1回ごとに1申請とする ・1日につき4時間を超える託児サービス利用を補助対象とする

2. 保育室・一時保育サービス

ダイバーシティ推進センター交流サロンi-cafeには、小規模の保育室があり、育児休業中の職員のセミナー出席や休日出勤する教職員のために一時保育サービスを行っています。

2024年度は、大学入学共通テスト、婦人科検診時に利用がありました。本学で開催される学会やセミナーの際にもご活用いただけます。

2 産学連携による取組

(1) 女性技術者リーダー養成塾

名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター主催「女性技術者リーダー養成塾」が第10期を迎え、2024年8月から11月にかけて開催されました。本年度は東海地方を中心とする製造業22社から24名の女性技術者が参加し、リーダーとして長く活躍するためのスキルと視点を育みました。



8月23日に行われた入塾式では、ダイバーシティ推進センター長・吉田江依子副学長が開講の挨拶を行いました。続いて開始した第1回講座の午前中は、キャリアコンサルタントによるキャリアデザイン講座が行われ、「キャリア・アンカー」の手法による自己理解とグループ対話を通じて、価値観の多様性やキャリアビジョンを描く力を養いました。午後には、西岡慶子塾長による講義で、日本企業の課題やプロ意識の重要性について考察し、キャリアラダーの実践について議論しました。

第2回(9月10日)では、品質管理、コミュニケーション、ヒューマンエラーをテーマに、課題の可視化や対策手法を学びました。第3回(9月27日)は、知財、マーケティング、リーダーシップを中心に、特許の視点から発明を掘り起こすトレーニングや、製造現場の課題をもとに実践的なケースディスカッションを行いました。第4回(10月23日)は、プロジェクト・マネジメントとチームビルディングについて、技術開発の現場経験を踏まえた講義と、リーダーシップスタイルの検討が行われました。



11月15日の卒塾式では、塾生が「リーダーになるための行動宣言」を発表し、西岡塾長より修了証が授与されました。塾長講演では、ダイバーシティとインクルージョンの力が組織の成長につながるということが語られました。参加者からは「共通の悩みを共有できる仲間ができた」、「行動につながる具体的な学びがあった」との声が寄せられ、大きな成長の機会となりました。

2024年度「第10期女性技術者リーダー養成塾」の実施内容

実施日	内 容	講 師
8月23日	・自分とチームを信じてキャリアビジョンを描こう ・アフターコロナに向けたキャリアラダーの展望と実践	株式会社eight 代表取締役 鬼木利瑛氏 株式会社光機械製作所 代表取締役社長 (名古屋工業大学 客員教授) 西岡慶子氏
9月10日	・「品質」をテーマにものづくりのマネジメントを考える ・コミュニケーションの基本スキルを考える ・「ポカミス」をテーマにものづくりの安全を考える	愛知工業大学 経営学部 教授(名古屋工業大学 名誉教授) 仁科健氏 名古屋工業大学大学院工学研究科 鷺見克典教授 名古屋工業大学大学院工学研究科 神田幸治准教授
9月27日	・ものづくりにおける知財活用意義 ・製品開発にいかすマーケティング手法 ・ものづくり現場における私らしいリーダーシップスタイル	名古屋工業大学大学院 工学研究科 伊藤洋介准教授 (日本弁理士会 知的財産経営センター 担当副センター長) 愛知東邦大学 経営学部 教授 安藤 真澄氏 トヨタ自動車株式会社 パワートレーン統括部 主査 (名古屋工業大学 特任准教授) 落合清恵氏
10月22日	・プロジェクト・マネジメント：新しい価値を創造するために ・成果を引き出すためのチームビルディングの実践	名古屋工業大学 客員教授・名誉教授 北村憲彦氏 本田技研工業株式会社 取締役 (名古屋工業大学 客員教授) 我妻三佳氏
11月15日	・卒塾式・塾生スピーチ「リーダーになるための行動宣言」 ・塾長講演「経営に活かすダイバーシティの力」	株式会社光機械製作所 代表取締役社長 (名古屋工業大学 客員教授) 西岡慶子氏

対象者 : 製造業に勤めている意欲的な女性技術者

参加者 : 企業22社より24名



(2) 女性技術者リーダー養成塾10周年 フォローアップ講座

名古屋工業大学の女性技術者リーダー養成塾は、第10期を記念して卒塾生を対象とした「フォローアップ講座」を2024年12月3日に開催し、7社から11名の女性技術者が参加しました。

講座では2つのセミナーを実施しました。最初に、名古屋工業大学の伊藤洋介准教授が「ものづくりにおける知財活用の意義」をテーマに、特許の基礎や発明発掘について講義し、参加者は技術者と消費者の視点を行き来しながら、知的財産の戦略と社会貢献を学びました。続いて、本田技研工業株式会社の我妻三佳氏が、卒塾後のキャリアの変化についてディスカッションを実施した後、「生成AIブーム～リーダーはどう変わるか～」をテーマに、AIの影響と求められるスキルについて講義しました。



我妻三佳氏

参加者からは「『女性だからこそ直面する困難もあるが、負けないでほしい』という言葉が印象的だった」、「9年前の受講時とは異なる道を歩んでいるが、挑戦を重ねてきたと実感した」との声が寄せられました。



伊藤洋介准教授

(3) 産業論

2024年11月20日から12月9日にかけて、工学部第一部2年次後期共通科目「産業論」の授業内で、「ダイバーシティセミナー」を実施しました。この授業は、工学技術者としての産業社会への責任や、自らのキャリアについて主体的に考える力を養うことを目的とした、2年次必修科目です。2024年度は約950名が受講しました。

生命・応用化学科および情報工学科では、株式会社デンソーに勤務し、キャリアコンサルタントとしても活動する杉浦真紀子氏を講師に迎え、「Will・Can・Must」をキーワードにキャリアビジョンの構築方法を学び、ダイバーシティを意識した自身の行動を振り返る機会も得ました。

物理工学科では、ノリタケ株式会社横山真紀子氏(本学OG)が、「人生100年時代」と「アンコンシャスバイアス」をテーマに、採用や人材育成の観点からお話しされました。

電気・機械工学科では、トヨタ自動車株式会社勤務であり、名古屋工業大学特任准教授でもある落合清恵氏(本学OG)を迎え、「大学時代の学び・経験が仕事にどう活かせるか」をテーマに、20代から40代にわたるご自身の業務経験を通して、技術者としてキャリアを発展させていくために必要な視点や行動について語られました。

社会工学科では、名古屋市男女平等参画推進会議イコールなごやシンポジウム「性別にかかわらず個性と能力を発揮できる『男女共同参画社会』をめざして」を開催しました。ダイバーシティ推進センター武藤敦子副センター長がモデレーターを務め、パネリストとして、ジャーナリストの山本恵子氏、NPOファザーリング・ジャパン理事の横井寿史氏、市内の女性活躍推進企業2社が登壇しました。日常で感じるアンコンシャスバイアスについて考察を深めた後、リアルタイムで意見を投稿できるオンラインツールを使って、学生と登壇者との意見交換を行いました。

ダイバーシティセミナーを通して、学生は、技術者としてのキャリア形成を多角的に考えるとともに、多様な価値観やライフスタイルへの理解を深めました。実社会で直面する課題や無意識の偏見に気づくことで、自身の行動や考え方を見直し、多様性を尊重する姿勢を身につける貴重な学びの機会となりました。



杉浦真紀子氏



横山真紀子氏



落合清恵氏

日時：2024年11月20日～12月9日

講師：株式会社デンソー 杉浦真紀子氏

ノリタケ株式会社 横山真紀子氏

トヨタ自動車株式会社 パワートレーン統括部 主査(本学 特任准教授) 落合清恵氏
名古屋市男女平等参画推進会議「イコールなごや」

対象：工学部第一部2年



イコールなごやシンポジウム

3 次世代育成

(1) 全学に向けたダイバーシティ教育

本学では、ダイバーシティ推進、男女共同参画をテーマとする授業を学部・大学院で正課科目として開講しています。ダイバーシティ推進センター教員が担当し、次世代を担う技術者として弁えるべきジェンダー平等の意識や多様な文化への配慮について、実例に基づいて深く考察する機会を設けています。

■ダイバーシティ概論（共通科目3年次前期）

「ダイバーシティ概論」は、人の多様性に対する素養と実践力を備えた人材養成を目的とする授業で、アクティブラーニングを多く取り入れています。授業内課題として、ダイバーシティにまつわるコンフリクトをテーマにディスカッションやプレゼンテーションを実施し、ダイバーシティ・マネジメントの基礎知識を身につけるとともに、他者と協力してディスカッションを運営する力、説得力のあるプレゼンテーションを行う力を同時に養いました。キャリア形成をテーマとする回では、講師に株式会社デンソー勤務で、キャリアコンサルタントでもある杉浦真紀子氏、トヨタ自動車株式会社パワートレイン製品企画部主査（名古屋工業大学特任准教授）落合清恵氏を迎え、ライフステージとキャリアの多様性についてディスカッションを行いました。

■男女共同参画社会論（共通科目2年次後期）

「男女共同参画社会論」では、現代社会における性別をめぐる諸問題について理解し、なぜ男女共同参画が必要なのか、どうしたら男女共同参画社会を実現できるのかを考察します。ジェンダー論の基礎、家族関係、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、教育システム、労働環境、社会政策における諸問題を国際比較も含めて学び、性別にかかわらず個人の人権が尊重される社会の在り方を考察しています。2024年度は、河村電気産業株式会社の協力を受け、ものづくりの現場に性差分析を取り入れ、多様な社員が働きやすい環境をいかに作るかを考える、「ジェンダード・イノベーションワークショップ」を新たに行いました。ワークショップではリアルタイムで工場と中継をして、性差を考慮することで見える現場の課題を話し合いました。

■ダイバーシティ社会論A・ダイバーシティ社会論B（大学院共通科目）

「ダイバーシティ社会論A・ダイバーシティ社会論B」は大学院博士前期課程の共通科目です。授業では、分離と格差、対立、他者理解、ジェンダード・イノベーション、ダイバーシティ・マネジメントを主題とする英語文献を読み、各回、受講生が内容を報告しました。個人や小集団におけるダイバーシティに関わる現象や影響を分析するための視点を身につけ、各授業の後半では、テーマに沿って日常的に観察される現象を引きながらディスカッションを行いました。



(2) 次世代萌芽インセンティブ

学部から大学院博士前期課程への女子学生の進学者に比べて、将来の女性研究者候補である大学院博士後期課程への進学者は、極めて少ないのが現状です。工学分野のダイバーシティ推進のためには、博士後期課程への進学を支援することが急務であると考え、女子大学院生の研究キャリアのスタートを支援する「次世代萌芽インセンティブ制度」を2018年度に発足しました。2024年度は、1名の大学院生が採択され、国際会議で研究成果を発表しました。

対象

- (1) 博士前期課程2年在学中の女子大学院生で、本学大学院博士後期課程への進学が決定している者。
- (2) 博士後期課程在学中の女子大学院生。ただし、スタートアップ助教を除く。

採択者の声

工学専攻 博士後期課程2年 ZHAO Mingjuan

2024年11月10日から14日にかけてタイ・チェンマイで開催されたAPIEMS2024(第24回アジア太平洋工学管理システム学会)において、「Multi-objective FJSP Considering Human Factors Using an Artificial Bee Colony Algorithm」というタイトルで口頭発表を行いました。

本研究では、多目的柔軟ジョブショップスケジューリング問題(FJSP)を対象に、4つの要因(生産効率、注文遅延コスト、労働者賃金、作業負担リスク)を同時に最適化する数学モデルを提案しました。特に、OCRA(Occupational Repetitive Actions)法を用いて人間工学的リスクを定量的に評価し、労働者の健康を考慮したスケジューリング手法を開発した点に新規性があります。また、このモデルを効果的に解くために人工蜂群アルゴリズム(ABCA)をカスタマイズし、数値実験を通じて、生産速度や環境要因が総コストや作業負担リスクに与える影響を分析しました。これにより、本研究は労働環境の改善と生産性向上を両立する具体的な戦略を提案しました。

本学会では、FJSPにおける人因を考慮したモデル設計やアルゴリズムの有効性について議論を深め、他の参加者から貴重なフィードバックを得ることができました。また、最新の研究動向や他分野のアプローチを学ぶ中で、具体的な改良手法や今後の研究方向を明確にする多くの示唆を得ることができました。

(3) 女子学生団体「彩綾 — SAYA —」

女子学生の少ない本学で、学科・学年を超えた女子同士のつながりを持つことや、女子のキャリアをサポートすることを主な目的として活動する女子学生団体です。理系女子のキャリアを考えるイベントと並行して、SAYA内でのメンバー同士の交流を深められる楽しい企画も行っています。

2024年度メンバー：合計67人

【学年別】 D1：1人 M2：2人 M1：3人
B4：5人 B3：13人 B2：10人 B1：33人

【学科別】

生命・応用化学専攻・学科：25人 電気・機械工学専攻・学科：26人
物理工学専攻・学科：3人 情報工学専攻・学科：3人
社会工学専攻・学科：1人 創造工学教育課程：9人

【活動内容】

くりヶ女子会>

企業で活躍する女性エンジニアの方と交流する機会を設けることで、ロールモデルとなるような人と出会い、エンジニアとして働くことと企業への理解を深める。

- 参加学生：30名
- 参加企業：(株)アイシン、(株)アドヴィックス、アピ(株)、アンリツ(株)、イビデン(株)、(株)NTTデータ東海、(株)小松製作所、ソニーグローバルマニュファクチャリング & オペレーションズ(株)、中部電力(株)、(株)デンソー、(株)東海理化、東海旅客鉄道(株)、(株)トヨタシステムズ、本田技研工業(株)、(株)村田製作所、(株)LIXIL (五十音順・敬称略)



(4) 女子学生向けオープンキャンパス

2024年6月1日、8月1日、オープンキャンパスにて、女子学生向け座談会を開催しました。参加者は、希望学科ごとに8つのグループに分かれて座り、女子学生団体彩綾～SAYA～のメンバーを中心とする本学女子学生が、和気藹々とした雰囲気の中、高校生の質問に答えました。高校時代の部活と勉強の両立、塾に行っていたかどうか、おすすめの参考書、志望校決めの時期や大学選びの軸、秋からの模試の活用方法など、多くの質問が寄せられ、女子学生が自身の経験から進路選択の視点や日々の実感など、率直に思いを伝えて回答していました。

参加者からは「フレンドリーに話していただいたので、知りたい事を知れた」、「大学生活の楽しさや大変さを実感した」、「就職を見据え、学科を選択する目を養うことができた」などの感想が寄せられました。



女子学生向け座談会の様子

(5) スーパーサイエンスハイスクール事業への協力

2024年8月21日(水)愛知県立一宮高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業「女性科学者のたまご育成プロジェクト」の取組の一環として「ラボビジ」を開催し、愛知県内の22名の中高校生(高校生20名、中学生2名)が参加しました。

進行役の電気機械工学科4年生の太田有咲さんの挨拶で始まり、案内役を務める名工大女子学生団体彩綾～SAYA～所属の学生3名が自己紹介をしました。講演会「工学進路の魅力と研究紹介」では、物理工学科の徳永透子助教、成田麻未助教、宮川鈴衣奈助教が講演を行い、高校時代から研究者になるまでの道のりや、現在の研究の魅力を生き生きと語りました。

講演後、サポーターの案内のもと、参加者は3グループに分かれて3つの研究室とキャンパスの見学を行いました。最後に、彩綾の在学学生との座談会が行われ、受験勉強の方法、どんなアルバイトをしているのか、部活やサークル活動、研究室に入ってから生活、1日のタイムスケジュールなど、幅広い質問が寄せられました。

(6) モノづくりチャレンジ「3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう！」

モノづくりチャレンジ・アドバンスト「3Dプリンターマスター講座」

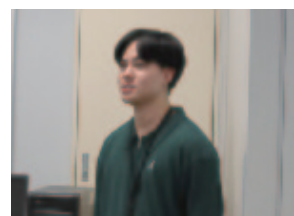
本学では、女子中高生の理工系分野への関心を高め、進路選択の一助とすることを目的に、2024年度も「モノづくりチャレンジ：3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう」を開催しました。本プログラムでは、3D CADと3Dプリンターを活用し、アイデアの立案から製品の完成までを一貫して体験できる機会を提供しています。

2024年は、8月に2回、12月に1回の講座を開催し、合計49名の女子中高生が参加しました。

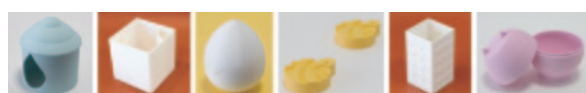
8月3日には、公開講座として開催しました。アンリツ株式会社 理事・CTOで本学OGの野田華子氏を講師に、同社OBの疋田啓悟氏や女子学生サポーターの協力を得て、参加者は3D CADに初めて触れながら、ハムスターハウスやアクセサリースタンドなど、自ら考案したオリジナルグッズの設計に挑戦しました。紙に描いたデッサンを立体化する作業には苦戦する場面もありましたが、女子学生サポーターの助けを借りて、全員が設計を完了させることができました。



アンリツ株式会社 理事・CTO 野田華子氏

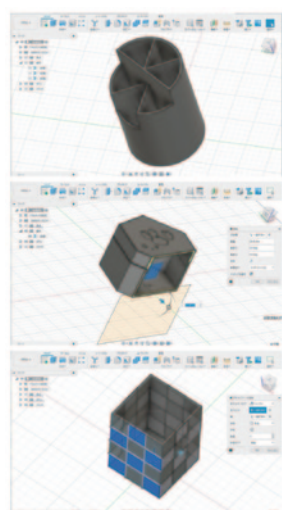


疋田啓悟氏



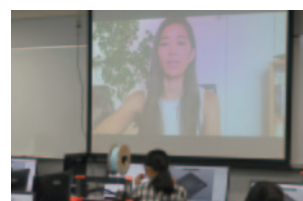


翌8月4日には、前年度までの講座に参加した経験者を対象に、「モノづくりチャレンジ・アドバンスト:3Dプリンターマスター講座」を実施しました。本講座は、3Dプリンターメーカー Prusa Research 社の協賛により開催され、CADの復習からスライサーソフトの操作までを学ぶ実践的な内容でした。参加者はランブシェードやタブレットスタンドなどを設計し、造形の仕上がりや効率を考慮した工夫を凝らしながら、完成品を手に入れました。



参加者の設計した3D作品

12月21日には、第6回目となる「モノづくりチャレンジ:3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう!」を公開講座として開催し、17名の女子中高生が参加しました。この日も学生団体「彩綾ーSAYAー」を中心とする6名的女子学生サポーターが参加者を支援し、順調に設計作業を進めました。参加者は事前に描いたデッサンをもとに、3D CADでの設計からプリントまでを体験し、それぞれがオリジナルの作品を完成させました。



協賛：Prusa Research 社



今後も本学では、女性の理系進路選択を支援する活動として、ものづくりを通じた学びの場を提供し続けていきます。



参加者のご感想

- ・ パソコンやCADの操作に慣れていなかったので少し難しかったけど、自分で考えたものを実際に作ることができて面白かったです。
- ・ 慣れると楽しくて、次はもっと複雑な形にも挑戦したいと思うようになりました。
- ・ 講師やサポーターの方が最後まで丁寧に教えてくださり、やり遂げることができて達成感が大きかった。
- ・ 前はずっとアシスタントの方に聞きっぱなしでしたが、今回は前より自分の力で進められてうれしかったです。
- ・ 講座を受講したことで、モノ作りに関心を持った。とても楽しく学習できたので、また受講したいです。

講師：アンリツ株式会社 理事・CTO 野田華子氏
会場：11号館2階CAD室
対象：中学1年生～高校1年生の女子

第5回
2024年8月3日
参加者：18名

アドバンスト
2024年8月4日
参加者：14名

第6回
2024年12月21日
参加者：17名

(7) モノづくりチャレンジ「プログラミング体験: ドキドキ棒で電気の仕組みを楽しく学ぼう!」

第4回開催

2025年3月20日、小学校4年生から中学3年生までの女子児童・生徒を対象に、モノづくりチャレンジ「ドキドキ棒で電気の仕組みを楽しく学ぼう!」を本学NITechホール2階 ラーニング・コモンズ EPSON STUDIOにて開催しました。小中学生20名が参加し、micro:bitを使ったプログラミングと、スチレンボードを使って「ドキドキ棒」コース作りに挑みました。

冒頭で、ダイバーシティ推進センターの加野泉准教授より、工学分野とその先の進路について紹介があり、その後サポーターとして参加した女子学生が自己紹介し、工学分野で学ぶ楽しさを話しました。

プログラミング講座は、株式会社プロキッズにより進行されました。4人ずつグループとなり、最初はmicro:bitに自分の名前を表示させたり、グループ内の参加者にメッセージを送る基本的なコマンドを学びました。学生サポーターの的確なアドバイスもあり、皆、順調に操作を自分のものにしていきます。

コマンド作成に慣れたところで、micro:bitを使って、電気が流れるとブザーが鳴る仕組みをプログラミングして、電気の流れを実感し、電子回路の仕組みについて学びました。その後、スチレンボードを使って、「ドキドキ棒」を進めるためのオリジナルコースを描き、導電テープを貼ってコースを完成させました。

「ドキドキ棒」とコースが完成したら、いよいよ実走です。導電テープに触れないように慎重に棒を運ぶ一方で、ゴールタイムも気になります。見学していた保護者の方も一緒にお子さんの作成した「ドキドキ棒」で遊んで盛り上がり、歓声も上がっていました。

参加者は、電気やプログラミングの基本知識を学びながら、自分の手で作品を作り上げる達成感を実感しました。イベント後には、「プログラミングが楽しく、何も無いところから指示を組み立てて自動で動かせることに驚きました」、「理系を目指してがんばっている女子がたくさんいて、私もがんばろうと思いました」との声が寄せられました。



日時 : 2025年3月20日 13:30 ~ 16:30
講師 : 株式会社プロキッズ
会場 : NITech Hall 2階 ラーニング・コモンズ EPSON STUDIO
対象 : 小学4年生~中学3年生の女子児童・生徒

小学生 13名
中学生 7名

合計 : 20名参加



(8) 女性同窓会「鶴桜会」・「OG人財バンク」

1. 女性同窓会「鶴桜会」

鶴桜会は、「一年に一度会いましょう!」を合い言葉に、女性卒業生や現役女子学生が交流でき、縦と横のつながりを持てる場として2016年に設立した女性同窓会です。

2024年10月5日、第8回年次交流会を開催しました。本年は、女子学生のためのテクノフェスタと合同の講演会として、NITech Hallにてブラザー工業株式会社の神谷美貴さんによる講演「女性エンジニアを選んだ私の歩み」が開催されました。講演会は、講演とパネルディスカッションの二部構成で、女子高校生や女子大学生と活発な質疑応答となりました。

講演会の後、校友会館内「カフェ サラ」にて昼食交流会を開催し、OGや現役女子学生など計25名が参加しました。交流会では、吉田江依子ダイバーシティ推進センター長による乾杯の後、鶴桜会会長の武藤敦子准教授より挨拶と総会が行われました。その後、参加者全員の自己紹介とグループトークを行い、参加者同士が世代を超えて親睦を深めました。

これからも世代や専門分野を超えて「名工大で学んだ女性」という新しい繋がりによる交流コミュニティとして、毎年10月に昼食交流会を開催予定です。



鶴桜会
KAKUOUKAI



2. 「OG人財バンク」

2014年に発足した「OG人財バンク」は、ライフイベント等で社会の第一線から退いた本学OGを研究支援員として起用することで、専門性を活かした高度な支援を女性研究者に提供すると同時に、支援員となる本学OGにも再チャレンジのきっかけを提供するという、双方にメリットのある仕組みとして考案されました。現在では、社会の第一線で活躍する女性卒業生も含めた全ての本学OGを登録対象とし、学内外からのさまざまな要望に応えられる工学系女性人財の情報バンクに成長しています。例えば、ご登録情報に基づいて、実務型教員として母校の教壇に立っていただく、あるいはロールモデルとして学内外のイベントにご協力いただくなど様々な活用実績があります。今後は、全てのOGの皆様それぞれにメリットが感じられるような女性技術者・研究者の人財情報共有コミュニティとして成長させていきたいと考えています。



4 情報発信



(1) 女子中高生工学進路選択支援サイト「工学の扉を開こう」

2025年2月、女子中高生工学進路選択支援サイト「工学の扉を開こう」で、新たな動画を公開しました。生命・応用化学科の学びと研究を紹介する内容で、生命・応用化学類の中村修一教授に研究内容、研究室、学生指導についてお話いただきました。

生命・応用化学類の大学院生、学部生も登場し、研究の面白さや研究環境を紹介しました。博士後期課程1年で、スタートアップ助教でもある飯塚夕夏さんは、自身の研究の魅力と、本学独自の若手女性研究者支援制度「スタートアップ助教」を紹介し、これから進路を考える女子学生に向けて支援制度の充実も伝えました。

本サイトは、女子中高生を対象に工学部での学びやその魅力、将来のどのような職や研究につながっていくのかを具体的に伝え、次世代を担う多くの女子学生に工学分野への関心を高めていただくことを目的として、常時公開しています。今後も継続してコンテンツを充実させ、工学の幅広い可能性を伝えていきます。



追加動画コンテンツ内容

▶生命・応用化学科の学びと研究紹介



生命・応用化学類
中村修一教授

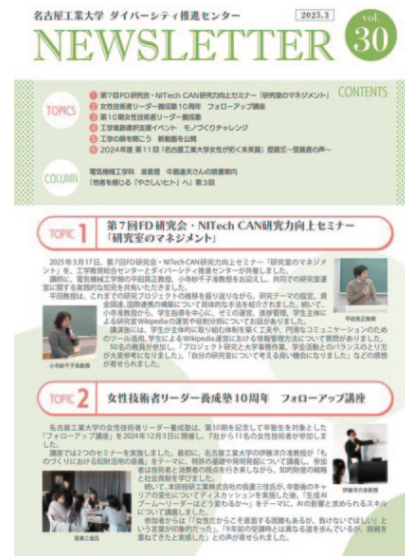
▶研究の魅力と若手女性研究者支援制度「スタートアップ助教」紹介



博士後期課程1年、スタートアップ助教
飯塚夕夏さん

(2) ニュースレター

ダイバーシティ推進センターの取組の詳細を紹介するニュースレターを2024年9月、2025年3月にPDF発行しました。





(3) メディア掲載

- 2024年6月23日 中日新聞 朝刊12面「第10期女性技術者リーダー養成塾受講者募集」の記事が掲載されました。
- 2024年8月29日 中日新聞 朝刊12面「防災は生活に密着 女性登用を進めて：県PT会議 名工大・加野准教授強調」にて、加野 泉准教授の講義が紹介されました。
- 2024年9月20日 朝日新聞朝刊23面「解消しない男女賃金格差 なぜ」にて、加野 泉准教授の解説が紹介されました。
- 2024年10月25日 中日新聞 朝刊1面、及び中日新聞Web「選択的別姓 動かぬ国会 経団連は提言」において、加野 泉准教授の解説が掲載されました。
- 2025年3月8日 中日新聞 朝刊22面、及び中日新聞Web「【国際女性デー】ジェンダー・ギャップ指数、中部は行政で対策進む 教育、経済分野では伸び悩み」において、加野 泉准教授のインタビューが掲載されました。

名古屋工業大学 ダイバーシティ推進センター
2024年度 事業報告書

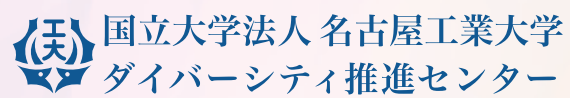
発 行：国立大学法人 名古屋工業大学
ダイバーシティ推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

E-MAIL：diversity-crew@adm.nitech.ac.jp

URL：https://diversity.web.nitech.ac.jp/

2025年3月発行



〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL/FAX: 052-735-5121

E-mail: diversity-crew@adm.nitech.ac.jp

U R L: <https://diversity.web.nitech.ac.jp/>